



産経新聞

歴史の交差点

武蔵野大特任教授 山内昌之



が欧米あたりから上がっている。しかし、投票用紙の不正処理などがあつたとしても、エルドアン氏は少なくとも選挙民の32%に強固な支持基盤を持っている。そのうえ、最大都市イ

トルコのエルドアン大統領は、6月に52%の高得票率で再選された。2023年までの任期である。同氏は、イランのハメネイ最高指導者とともに中東屈指の独裁者となるという観測を、欧亜にまたがるメガロポリ

スとして蘇生させた実績や、トルコをG20有数の経済強国に育てた首相としての手腕は、ハメネイ師にはないものだ。もし、イスラム革命の指導者、ホメイニ師がハメネイ師を

後継者に指名しなければ、ほとんどのイラン人はその名を知ることもなかっただろう。そのホメイニ師も、フランスなど海外で亡命中にシャール(国王)の王朝下で選挙が行われていたとしても、彼に投票するイラン人は5

中東 手腕異なる独裁者

から10%程度にとどまったという分析もある。この見方によれば、ホメイニ師は、シャールが権力を放棄して軍が中立を宣言するなか、街中に放り出された宝石箱を進んで拾い上げたにすぎない。軍を含

争で死亡したイラン人は100万人以上に達したのに、エルドアン氏がクルディスタン労働者党との戦いやシリア内戦への介入でトルコ人に強いた犠牲は数千人にとどまっている。エルドアン氏は地方都市と農村部に利益再配分を図るポピュリズムとリアリズムの徒ではあるが、革命を奇貨として親族や支持者に堂々と国家財産を分配したシーア派宗教者ほどの大胆な政治的シュールレアリスムに

(やまうち まさゆき)